令和８年度 福島県障がい者相談支援（障がい者ケアマネジメント）従事者養成研修

演習事例

『事例の概要』

受講生の皆さんは相談支援専門員という想定で演習を行います。

７月某日

兄（県一）より、知的障がいを持っている弟（県二）の件で相談したいことがある…との電話が相談支援事業所に入り、詳細を伺うため面談を行う約束をした。電話では本人と同居していた母親が半年程前に他界し、現在は一人暮らしの状態とのこと。詳細は面談の時に確認することになった。

７月〇日	本人が兄に連れられて相談支援事業所へ来所。 兄から「本人の今後の生活について相談したい」とのこと。 本人は緊張した様子で、兄と私の話を聞いている。
兄　県一：	「知的障害の県二は、ずっと実家で母親と２人で暮らしていましたが、半年程前に母親が心筋梗塞で急死してしまいました。母親が県二の身の回りのことみんなやっていましたので、県二は何もできません。母が亡くなった今は、自分が母親の代わりにやっていますが、仕事や家庭がありますので、毎日面倒をみることは出来ません。今のところは、市内に住んでいますので、仕事帰りに毎日のように県二の所に寄って、様子を見たり、夕食を届けたりしています。自分も仕事が忙しいですし、妻と子供２人もいますので、これから先もずっと今のような生活を続けていくことは出来ないと思っています。」
相談支援専門員：	「そうですか、お母さんが亡くなって大変なのですね。他にご家族はいますか?」
兄　県一：	「父親は今から５年前に亡くなり、他に親戚はいません。兄弟も私と県二の２人で、後は私の妻と子供２人です。現在、県二は実家に一人で住んでいますが、ほとんど何も出来ません。せめて自分の身の回りのことや掃除など家のことができればいいのですが・・・。掃除や洗濯はもちろん、強く言われないとお風呂も入りません。着替えもろくにせずに不潔になっています。お金もあればあるだけ使ってしまうので、必要な分を

	その都度手渡しています。今は母が貯めていてくれた貯金が少しあるのでそれで何とかやっていますが、私から援助できるほど金銭的な余裕もないので、将来はお金の面でも心配です。食事や火の管理も心配ですし・・・。 　私も、たまに顔を出して様子を見るくらいならできますが、これから毎日物を買って持っていったり、洗濯などの援助をずっと続けることははっきり言って難しいと思っています。 　自分なりにいろいろ調べたら、県二でも生活していけそうなグループホームというところがあると知りました。今後はグループホームに入って生活してもらうように考えています。本人のためにもそれが一番安心だと思っています。」
相談支援専門員：	「そうですか…お兄さんがいろいろ協力してくれていて、今の生活をすることができていたのですね。お兄さんは仕事終わりにほぼ毎日来てくれているそうですが、昼間は何をして過ごしているのですか？」
兄　県一：	「…何してるんだっけ？まあ、お昼の弁当とか、足りなくなったもの（トイレットペーパーとか）は、買うように決めておけば、近所に買いに行く事はあるようです。一人で知らない所には行かないように言っています。両親が生きている時は、家が農家だったので、時々手伝うことはあったみたいです。でも、それ以外はテレビ見たり、ゲームしたり、なにやら作ったりしていたところはよく見かけました。」
	その後、いろいろ話を兄から聞くことができ、本人に対しても質問してみるが、兄の顔色をうかがい、兄の言うことに「うん」と返事をするのみだった。 　今回の面接では本人の希望を伺うことができなかったため、後日改めて家庭訪問をさせていただく約束をし、7 月△日に相談支援専門員と二人で話をすることとなった。

7月△日	家庭訪問をして、本人と二人で話をする。 先日に面接した時とは違い、本人は緊張した様子もなく、にこやかな表情で受け答えをしてくれた。